



復刻の辞

「何を読むべきか」は一九三二年一月にプロレタリア科学研究所にて発行・編輯、白揚社から発売された書評誌である。発行元はその後「何を読むべきか」編輯部→「何を読むべきか」社→叢文閣と変遷する。誌名も「何を読むべきか」→「読書」と変遷し、また一九三四年二月には「読書」から「知識」と「生きた新聞」が分立して刊行された。

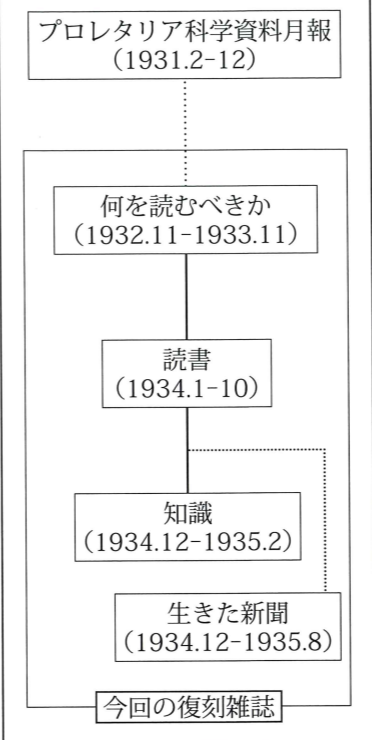
「何を読むべきか」誌発行の辞では『何を』『如何に』読むべきかを、プロレタリア科学運動の立場から、労働者や農民大衆に伝えることが目的です。とあり、文学誌上におけるブルジョア迎合的な文学論やファシズム文献を批判しプロレタリア諸運動にまつわる文献を紹介している。

「読書」誌は三〇〇〇部刷って二二〇〇〜一三〇〇部販売されていたといわれ、「かやうな雑誌としては達し得る最高の販売率」と自賛しているが、全国の運動実践者たちの理論武装のため大いに活用された様子がうかがえる。

戦前期の青少年の読書・学習傾向に目が向けられる昨今の研究動向に対して、文字通り「何を讀んできたのか」具体的に示す資料として貴重である。

不二出版

雑誌名の変遷



推薦のことは

有山輝雄 (元・東京経済大学コミュニケーション学部教授)

一九二〇年代三〇年代のメディア史は政治権力による統制の強化として語られるのが一般的である。それは決して間違いではないが、より近づいてメディア状況を観てみるならば、統制の強化にもかかわらず依然として左翼的言論活動は盛んで、主要な総合雑誌にはマルクス主義知識人の論文が掲載され、左翼的新聞雑誌、書籍などが数多く発行されていたことが分かる。しかもそうした左翼的言論活動が一定の商業的ベースのうえに成立していたのである。厳しい取締下にあっても一定規模の読者が存在していたことは間違いのない。この読者の存在を十分視野にいれることができれば、統制の時代として平板に見られている一九三〇年代の複雑な地勢を読み解くことができるはずである。

今回復刻版の出される『何を読むべきか』『読書』『知識』『生きた新聞』はまさにこの時代において有力であった読者・読書を考えるための貴重な素材である。もとよりそれは左翼的な読者・読書であるが、それだけではなく、日本における読者・読書の典型的タイプを観ることが出来る。それは『何を読むべきか』というタイトルが示す通り正しい書物を階段を昇るように順序正しく読み学習していくのが正しい読書であるという考え方である。こうした学習的読書はマルクス主義運動において読書会、サークル等の組織化と結びつき最も整然と体系化された。復刻された一連の雑誌はそれをきわめて集約的に示している。そしてそうした読書は決してこの時期の左翼運動の特有のものではなく、我々の読書の一つのタイプなのである。またここにみられる生真面目な段階上昇型学習読書は非体系的即席読書など現代の様々な読書を考えるうえでも大いに有益である。

内容見本

この雑誌は『何を』『如何に』読むべきかを、プロレタリア科学運動の立場から、労働者や農民大衆に伝えることが目的です。「日本プロレタリア科学者同盟の大衆的教育」啓蒙のため機関紙として、『何を読むべきか』を、わが同盟の立場と任務に立つて、語るべきであります。つまり、本誌は、(一)ブルジョア地主共の御用科学に反対してプロレタリア農民の科学のための大衆×××に参加してゐる人々、或は参加しようとしてゐる人々をばかりでなく、(二)まだ色々とブルジョア科学、絶対主義者(ファシスト)や社会ファシストの理論の影響を受けてはゐるが、その矛盾や疑問の芽生えを感じ無意識的にせよプロレタリア科学に関心をもち始めた人々をまで、対象にしてゐるのである。

いひかへれば、直接的にはプロレタリア科学者同盟の、経営や農村に創られた、班とその基礎であるサークルの研究會活動を目安にしてゐるわけですが、サークルの人々には、プロレタリア科学の勉強の手ほどき書となり、班メムバーには、ブル科学の影響と闘つてプロ科学の基礎的な理論や状況の理解を自分も學び取り、サークルの人々にも説明できるやうにする道案内となるでせう。もちろん、この二種の対象が、その研究活動に壁があつたり溝があつたりするわけではないのですから、本誌は同盟員にも讀ませ、サークルの人々にも讀んでもらふつもりで、手ほどきと闘争必携の兩任務と結び付けて、本

▲『何を読むべきか』第1巻第1号「発刊の辞」冒頭

1932 ★ 十一月 號

創刊號

発行の辞 谷川 游(1)

論 壇 野 田(2)

○平田晋策の戦争論を評す 谷川 游(3)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(4)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(5)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(6)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(7)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(8)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(9)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(10)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(11)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(12)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(13)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(14)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(15)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(16)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(17)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(18)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(19)

○野田晋策の戦争論を評す 谷川 游(20)

▲『何を読むべきか』第1巻第1号目次

「何を読むべきか」誌は三〇〇〇部刷って二二〇〇〜一三〇〇部販売されていたといわれ、「かやうな雑誌としては達し得る最高の販売率」と自賛しているが、全国の運動実践者たちの理論武装のため大いに活用された様子がうかがえる。

戦前期の青少年の読書・学習傾向に目が向けられる昨今の研究動向に対して、文字通り「何を讀んできたのか」具体的に示す資料として貴重である。

▲『何を読むべきか』第1巻第2号「読者の声」

誌名	巻	号	年	発行日 奥付	発行日 『報』	処分日	発売 頒布禁止	削除	分割 還付	注意	備考
何を読むべきか	(1)	1	1932	11月5日	11月1日	11月1日	○				
	(1)	2	1932	12月5日	12月5日	12月3日	○				
	2	1	1933	1月1日							
	2	2	1933	2月5日							
	2	3	1933	3月10日	3月10日	3月9日	○				
	2	3	1933	3月10日	3月10日	3月13日			○		分割不許可。
	2	4	1933	4月10日							
	2	5	1933	5月22日	5月22日	5月31日	○				表紙には「6月号」。
	2	6	1933	5月30日							表紙には「5月号」。
	2	7	1933	7月5日	6月21日	6月17日	○				表紙に「改訂版」の押印。
	2	8	1933	8月1日							
読書	2	臨時号	1934	8月5日							表紙に「改訂版」。
	2	9	1933	9月5日	9月5日	8月22日	○				
	2	10	1933	10月5日							
	2	11	1933	11月5日	11月5日	10月21日	○				表紙に「改訂版」。700部発行(162部差押)。
	1	(3)1	1934	1月5日							
	3	2	1934	2月1日	2月5日	2月9日			○		表紙の発行日で「一月十七日」を黒消しし、「二月五日」に。
	3	3	1934	3月5日							
	3	4	1934	4月5日							
	3	5	1934	5月5日							
	3	6	1934	6月5日	6月5日	6月19日			○		
	3	7	1934	7月5日							
知識	3	8	1934	8月5日	8月5日	7月27日	○				
	3	9	1934	10月5日							
	3	10	1934	12月5日	12月1日	12月6日			○		
	4	1	1935	1月1日	1月1日	12月28日	○				3000部発行(1478部差押)。
	4	2	1935	2月1日	2月1日	2月2日	○				表紙に「改訂版」。
	1	1	1934	12月15日	1月5日	12月20日	○				1000部発行(726部差押)。
	1	2	1935	2月5日	2月5日	1月22日	○				
	1	3	1935	3月5日	3月5日	2月26日	○				
	1	3改訂版	1935	3月5日	3月5日	3月8日			○		
	1	4	1935	4月5日	4月5日	3月20日	○				表紙に「改訂版」の押印。990部発行(483部差押)。
	生きた新聞	1	5	1936	5月5日						
1		6	1935	6月5日	6月5日	5月24日	○				3007部発行(2699部差押)。
1		6改訂版	1935	6月5日	6月5日	6月1日			○		
1		7	1935	7月5日	7月5日	6月27日			○		
1		8月号臨時号	1935	7月10日	7月10日				○		「新聞版」のこと。
1		8	1935	8月5日							

▲『出版警察報』における『何を読むべきか』関係雑誌の処分(本復刻版の解説より抜粋・抄録)